

産学公民連携による環境技術等の共同研究事業 ～平成 28 年度研究成果報告会の参加者を募集します～

川崎市では、環境技術等の研究・開発の支援とその成果を地域社会に還元することを目指し、産学公民連携による共同研究事業に取り組んでいます。

平成 28 年度に実施した 4 件の公募型共同研究の成果について、事業者や一般の方などを対象に、次のとおり研究成果報告会を開催しますのでお知らせします。

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 平成 29 年 3 月 16 日 (木) 13:50 から 16:30 (13:30 開場) |
| 会 場 | 川崎市役所 第 4 庁舎 4 階 第 4・5 会議室 (川崎市川崎区宮本町 3 番地 3) |
| 主 催 | 川崎市環境局環境総合研究所 |
| 定 員 | 70 人 (事前予約、申込順) |
| 内 容 | 別紙の共同研究事業について、各共同研究者より成果を報告します。 |



◎申込方法 (事前予約、申込順)

下記のいずれかで御申込みください。(できるだけ、電子メールで御申込みください)

① 電子メールによる申込

「参加申込書」に必要事項を御記入の上、環境総合研究所都市環境課のアドレス
(30sotosi@city.kawasaki.jp)に送ってください。

※件名は「成果報告会参加申込書」と記載してください。

② F A X による申込

「参加申込書」に必要事項を御記入の上、FAX(044-288-3156)まで送ってください。

※「参加申込書」は、下記のホームページからダウンロードして御利用いただくか、担当までお問い合わせください。

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-5-7-0-0-0-0-0-0.html>

申込締切 平成 29 年 3 月 14 日 (火)

※なお、事前申込で定員に達しない場合は、先着順で当日受付も可能です。

【問い合わせ先】 川崎市環境総合研究所都市環境課 原
電話 044-276-8964

【平成28年度の共同研究の概要】

1 地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法に関する研究

[共同研究者] 学校法人五島育英会 東京都市大学

低炭素社会の推進に向けては、各主体、各地域での取組が重要となってきます。

この研究では、既成市街地における低炭素なまちづくりの実現に向け、3年にわたり取り組んできました。

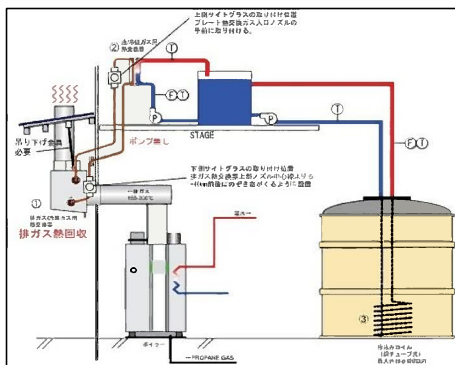
今年度は区画整理事業が進む地域(登戸)の特徴を活かした空地活用イベントの開催や商店街エコポイントの拡充などによる低炭素活動の効果検証等を行い、研究の集大成として成果をまとめました。



空地イベント

2 小型・可搬型・分散型かつ安価な少量・低温度域排熱利用の推進に向けての実用レベル研究（排熱回収・熱輸送技術の実用性の検証）

[共同研究者] 一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会



ボイラー排熱の施設内再利用のシステム図

中小工場等からの少量・低温度域(概ね200℃未満)の排熱は、その多くが利用されることなく廃棄されています。

この研究では、省エネ効果やヒートアイランドの原因となる排熱の抑制を目指して3年にわたり取り組んできました。

今年度は実環境下における未利用熱の有効利用をテーマにシステムの技術実証を行うとともに、その導入を進めるための事業性等について検討し、研究の集大成として成果をまとめました。

3 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究
～「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する～

[共同研究者] 学校法人国際大学 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)

環境保全など、身近な地域社会の課題に対しては、地域コミュニティの課題解決力が重要です。

この研究では、地域コミュニティの維持発展のため、写真やデータを用いた誰にでもわかり易い情報を提供することで、多様な人々が対話する仕組みを作るなどコミュニケーションの活性化に効果的な手法の確立について3年にわたり取り組んできました。

今年度はフィールドを使った調査、実証実験等を行い、研究の集大成として成果をまとめました。



ワークショップ

4 微細藻類の新大量培養システムの研究開発

[共同研究者] 学校法人 東京薬科大学



クロレラの写真

クロレラ等の微細藻類の光合成でCO₂を固定化する効果的な培養システムの実用化に向けた研究を実施しています。

この研究では、CO₂の固定化と併せて光合成に必要な栄養源に工場排水を利用することで排水の浄化処理の効果についても実用化を目指しています。

初年度は排水を使った培養とリン吸収を段階的に実施しその効果を確認しました。